

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第22週 2024年5月27日（月）～ 2024年6月2日（日） 2024年6月6日作成

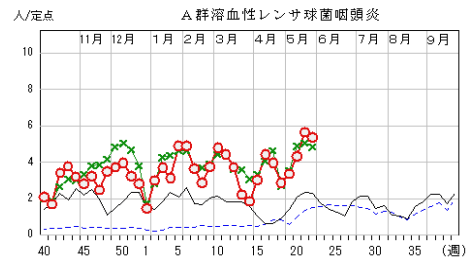
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第22週の報告数は236人で、前週より13人少なく、定点当たりの報告数は5.36であった。

年齢別では、10～14歳（44人）、5歳（33人）、4歳（31人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（19.60）、五島保健所（5.67）、西彼保健所（5.25）であった。

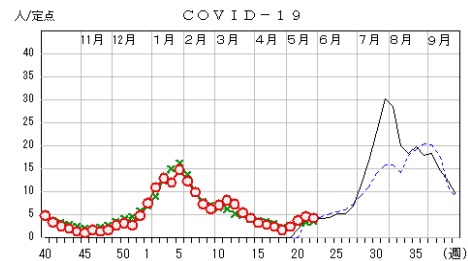


（2）新型コロナウイルス感染症

第22週の報告数は302人で、前週より19人少なく、定点当たりの報告数は4.31であった。

年齢別では、50～59歳（44人）、70～79歳（39人）、40～49歳（38人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（9.33）、県南保健所（7.88）、県北保健所（6.75）であった。

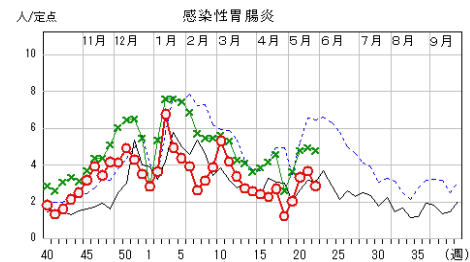


（3）感染性胃腸炎

第22週の報告数は126人で、前週より36人少なく、定点当たりの報告数は2.86であった。

年齢別では、3歳（18人）、10～14歳（17人）、4歳（16人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（5.67）、県央保健所（4.57）、西彼保健所（4.25）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第22週の報告数は236人で、前週より13人少なく、定点当たりの報告数は5.36でした。地区別に見ると県南地区（19.60）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。前週より減少しましたが、今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第22週の報告数は302人で、前週より19人少なく、定点当たり報告数は4.31でした。地区別にみると、上五島地区（9.33）、県南地区（7.88）、県北地区（6.75）は他の地区より多くなっています。年代別では、40代から70代で前週より増加しています。県全体では前週より減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第22週の報告数は126人で、前週より36人少なく、定点当たり報告数は2.86でした。地区別では、県北地区（5.67）、県央地区（4.57）、西彼地区（4.25）は、他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやサポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる3月から11月に増加します。

SFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。重症化すると死亡することもあり、致死率は10～30%といわれています。

県内では**2024年第22週までに11件**の報告があり、例年の同時期より多くなっています。2019年以降に報告された患者は、40～90代で、70代と80代で75%を占めています。

近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

発生状況、感染対策について、長崎県感染症情報センターホームページ内「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」にも掲載しています。

（参考）厚生労働省 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

（参考）国立感染症研究所 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/sa/sfts.html>

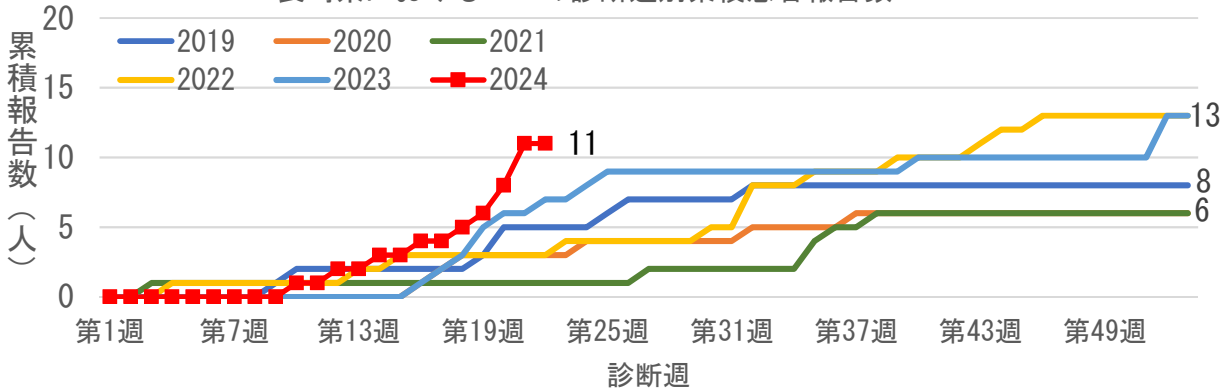


長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

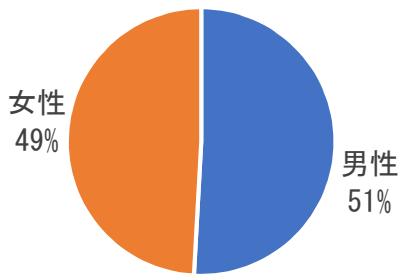
年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (5)	6 (3)	6 (1)	13 (3)	13 (7)	11
日本紅斑熱	15 (3)	18 (1)	28 (6)	22 (2)	14 (4)	5
つつが虫病	1 (0)	11 (0)	14 (1)	7 (0)	15 (3)	1

※()は第22週までの発生件数

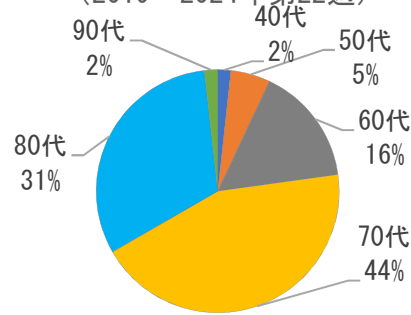
長崎県におけるSFTSの診断週別累積患者報告数



SFTS 性別割合 (2019~2024年第22週)



SFTS 年代別割合 (2019~2024年第22週)



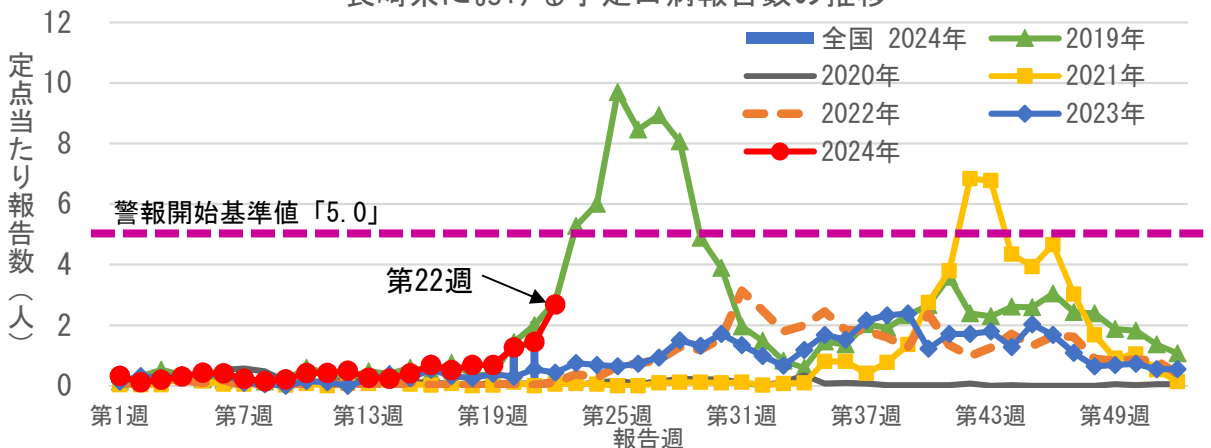
☆トピックス：手足口病に注意しましょう

手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

例年6~7月に流行する傾向にあります。長崎県の第22週の定点当たり報告数は「2.68」で3週続けて増加しています。地区別では、長崎地区(4.60)、西彼地区(4.00)、県央地区(3.71)が多くなっています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（70代・1名） 女性（80代以上・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：レジオネラ症 患者 男性（60代・1名）

5類感染症（全数把握対象）：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 女性（60代・1名）
梅毒 患者 男性（40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第17~22週、4/22~6/2)

疾患名	定点当たり患者数					
	17週	18週	19週	20週	21週	22週
	4/22~	4/29~	5/6~	5/13~	5/20~	5/27~
インフルエンザ	0.90	0.53	0.30	0.17	0.16	0.29
新型コロナウイルス感染症	2.42	1.69	2.43	3.74	4.59	4.31
RSウイルス感染症	0.84	0.43	0.77	1.11	1.64	1.25
咽頭結膜熱	1.12	0.84	1.02	0.95	0.70	1.70
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.95	2.86	3.36	4.32	5.66	5.36
感染性胃腸炎	2.72	1.23	2.02	3.34	3.68	2.86
水痘	0.16	0.02	0.18	0.09	0.30	0.14
手足口病	0.51	0.68	0.68	1.27	1.45	2.68
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02					
突発性発しん	0.23	0.18	0.36	0.50	0.25	0.34
ヘルパンギーナ	0.05		0.02	0.16	0.18	0.25
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.02		0.02	0.05	0.09
急性出血性結膜炎			0.13			
流行性角結膜炎	1.00	0.38	0.63	0.38	0.25	
細菌性髄膜炎	0.08					0.08
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.08	0.08		0.08	0.17	0.08
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						0.08

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第22週、5/27~6/2) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.29	1.00	0.12		0.50	0.27	0.13				
新型コロナウイルス感染症	4.31	4.18	3.18	5.00	1.67	2.73	7.88	6.75	3.50	9.33	5.00
RSウイルス感染症	1.25	1.83	2.40		1.00	0.29		4.00	0.33		0.50
咽頭結膜熱	1.70	0.83	2.30		1.50	2.29	0.20	4.00	2.00		3.00
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	5.36	4.33	1.80		5.25	4.86	19.60	3.67	5.67	1.00	4.50
感染性胃腸炎	2.86	4.00	2.50	0.50	4.25	4.57	2.00	5.67			
水痘	0.14		0.40			0.14	0.20				
手足口病	2.68	2.67	4.60	2.00	4.00	3.71	0.80	1.33	0.67		
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.34	0.33	0.30		0.25	0.71	0.60	0.33			
ヘルパンギーナ	0.25		0.70	1.00			0.40				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.09	0.17			0.25	0.14				0.50	
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎											
細菌性髄膜炎	0.08	1.00									
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.33								
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08		0.33								